天災・防災

宮司・代表役員
黒田忠雄

「天災は、忘れた頃にやってくる」著名な科学者寺田寅彦の言葉であるが、昨今の日本国内の自然災害の発生状況を見るとき、「天災は、忘れなくてもやってくる」と言い換えた方が良いと思うほどに災害が発生している。

伊豆七島、三宅島の雄山の噴火に伴う災害、またこれに関連するであろう神津島、新島、式根島などで頻発する群発地震による災害は、誠にお気の毒に思い、心からお見舞を申し上げるものであります。

原始時代から、火山活動による災害の恐ろしさとお付き合いをしつつ、一方ではその火山を生活の中に取り入れて、その恩恵にも浴して来た祖先であるが、その底知れない活動を単なる自然現象として捉えず、神々の深い御神意によるものと考え、その噴煙を御神火として、祀ってきたところである。

三宅島には、全員島外避難の指示が出され、九月四日災害対策関係者を残し、島に生活している全ての方々が島を離れたと言う。

何時帰ることができるかわからないまま永住の地を離れるその辛さは、筆舌では表せないことであろうし、第三者にはとても理解できない苦しみをもたらしていることであろう。

一方、秋雨前線と台風十四号の接近によってもたらされた豪雨による東海地方の災害も、死者、行方不明合せて十人に達し、家屋その他にも大きな被害を与えたが、これについても予測の範囲をはるかに超える降雨量によるものであったという。

現代科学が発達する中で、このような火山帯に覆われていると申しても過言ではない我国における火山噴火、地震を始めて、自然災害の発生について、未だ決定的な予知を出せ得ない点について、大自然の尊さ、厳しさ、底の深さに畏怖を感ぜざるを得ないのは、ひとり私だけではないと思う。

被災された人達に心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を切に祈るものであります。

……

三宅島が小康状態の八月上旬、御岳山観光協会が群発地震で悩む神津島、新島、式根島の子供たちを静かな山の上で過ごしてもらおうとご招待申し上げた。八月八日神津島村土谷教育長を始め引率者十人、学童六十三人合わせて七十三人が三泊して、束の間の静けさを味わいながら、山登りや、渓流での魚釣り、キャンプファイアを楽しんでもらい、喜んで島に帰っていただいた。観光協会の会長を始め関係者のボランティアによったもので、素晴らしい企画であった。

……

九月三日東京都は、「ビッグレスキュー東京2000～首都を救え～」と名付けた総合防災訓練を都心を中心に展開し、陸海空の自衛隊員七千百人も参加して、実施された。

マスコミ報道も自衛隊の出動についての賛否両論を始めて、識者の意見等を掲載しているが、首都東京に大規模な災害が発生したならばこれを最小限度の被害に抑え込むという知事の考え方の訓練であり「備えあれば憂いなし」の言葉の実践であろう。いかなる分野においても日頃の訓練の尊さを実感するものである。

翻って、当神社の防災体制はどうかと考えるとき、海抜九三〇米の山頂に鎮り、救急車両も登ることができない集落のさらに百米の高さに位置しており、防災上の問題は山積している。消防関係機関の指摘と相俟って、木造建築の各社殿、数多有する文化財の後世への伝承について、火災、雷、風害等の被害を最小限に食い止める方策を早急に検討し、御嶽大神の御神威の高揚に努める所存である。

講員、崇敬者の皆さん御嶽大神の御神徳により、安心して暮らせる災害の無い生活が送れるようお祈り申し上げます。

宿河原講について

講元　山根堅二

私達の講は、川崎市多摩区宿河原にあり、講員八十七名で構成している。

その歴史は古く、結講は約百四十年前と伝えられている。この間、講の盛衰はありましたが西須崎坊の須崎裕先生とそのお父さんに並々ならぬ御指導を頂戴して今日に至っております。

特に鮮明に記憶に残るのは、昭和五十八年五月に当時はまだ数える程しかなかった記念碑を建立したことである。

丁度この年は結講百弐十年に当るため、記念事業と位置づけて講員に呼びかけ完成したもので、役員始め講員による団結の賜であった。

半年間の準備を経て見事に建立した時は感無量で、多くの御協力戴いた方々に感謝の気持ちで一杯でした。

末尾ながらこの宿河原講を次の世代に伝えるべく責任を感じ、努力してまいりたいと考えておりますので、今以上の御指導を関係者の方々にお願いする次第であります。

各種ご案内

祈願料　三千円から
特別祈願　節分祭年男料、日の出祭供奉料
太々神楽の奏上料
講中・六万円、一般・十万円
（神饌料・御札料別途）
結婚式料　三万円から十万円
地鎮祭等各種出張祈願料
三万円から五万円
内容に付きましては社務所までお問い合せ下さい。
毎日八時三十分より四時三十分まで受け付けております。

太々神楽奏上講

（平成11年6月1日～平成12年5月31日）

新宿区　西落合葛ヶ谷講
山梨県　丸井紙店
青梅市　カンタンの会
青梅市　岩浪建設御嶽講
川越市　今福上区講
戸田市　新曽沖内講
川崎市　矩秀工務店睦会
立川市　ナショナルMAST協議会
富士見市　池ノ橋講
杉並区　浜田山講
青梅市　青梅市民ハイキング
青梅市　荒井電業社
狭山市　笹井講
神奈川区　羽沢御嶽講第一区
川崎市　馬絹講
川越市　古市場講
和光市　宮の脇講
八王子市　長沼講
川崎市　新城講
世田谷区　大口真神社燈籠奉納者一同
練馬区　船橋講
青梅市　大泉一心講
瑞穂町　黒仁田講
富士見市　鈴木協会
秦野市　靭矢中水子講
足立区　京王文化探訪
東京　秦野太々講
東村山市　本木東町会御嶽講
川口市　船堀太々講
松戸市　野口壹基替講
青梅市　元郷講
大田区　松戸講
府中市　仏法僧と探鳥の集い
神奈川区　六郷講
稲城市　八幡宿講
東長沼講　京王文化探訪
菅田南町講